

第3回西播磨新地域ビジョン検討委員会 会議録（要旨）

1 日 時

令和3年5月27日（木） 15:00～17:00

2 場 所

オンライン（西播磨総合庁舎 応接室）

3 出席者

委 員：谷口委員長、田端副委員長、井関委員、太田委員、長谷川委員、
三宅委員、久保委員、門田委員、大西委員、家氏委員、熊谷委員、
宮下委員、江見委員

県民局：渡瀬局長、久野室長、神尾、大西

4 内 容

- (1) 西播磨県民局長あいさつ
- (2) 西播磨新地域ビジョン検討委員会設置要綱の一部改正について
資料1により事務局から説明
- (3) 西播磨新地域ビジョンの策定スケジュール（案）について
資料2により事務局から説明
- (4) 西播磨新地域ビジョン骨子案（事務局案）について
資料3、4、5により事務局から説明し、意見交換を実施
（主な発言内容は以下のとおり）

（委員）

資料3を中心に意見交換して参りたいと思います。各ページ上段に事務局が目標像と取組の方向性を記述しているが、例えば、県民の意見を吸い上げたこの記述が充分か、先を見据えるところという内容が良いのではないか、あるいは県民の意見はこうなっているが見えていないところがあるのではないか、といった点などについて、是非ご意見を頂戴したいと思います。

意見は夢ごとに順番に見ていく方法でよろしいでしょうか。

（委員）

第1の夢は人にフォーカス、第2の夢は地域にフォーカス、第3の夢は仕組みにフォーカス、第4の夢は安全ということですが、フォーカスの仕方がそれぞれ違うので、夢ごとに見ていただいた方が良いと思います。

（委員）

では、第1の夢の7～11ページまでの記述内容や方向性等について、お気づきの点がございましたら、自由にご発言ください。チャットでも結構です。

7ページ「地域みんなで子育てを応援するまち」の取組の方向性について、欠けている視点、もう少し先を見据えた視点など、ご意見はございませんか。

（委員）

目標像1に、子育て、学校のことが出ているが、地域の小中高校の現状と、それが将来どうあれば良いのかについて、県民の皆さんの意見ですとか、あるいはビジョンの中で触れる必要はないのかと感じた。何か情報があれば紹介いただきたい。

（事務局）

県民意見では、統廃合により小学校の数がかなり減少し、それにより子どもと地域に係わる機会の減少、空き校舎を有効活用したいといったような意見が

あります。

データとしては、参考資料に付けていますが、例えば小学校の数でいいますと、2000年77校、2020年58校と、この20年で約20校減少しております。

(委員)

学校や通学の在り方は、日本全国各地域で工夫されていると思いますので、どういうものがビジョンの中で、それは逆にもっと細かいところで検討すべきなのかなど、そういうものもあるかと思えますけれども、例えば、和歌山県では高校の統廃合がかなり進められており、そのあたり生活にも密接な関わりがあると思いを聞かせていただいた次第です。

(委員)

学校が統廃合すると、地域との繋がりが薄くなるということを聞きますが、自身の地域の子どもを地域が受け止めにくくなっている等の現状や、自治体で工夫されていること、このような方向性を書くことよい等のご意見はありますか。お気づきの点があれば、後日でも結構ですので、事務局にお伝えください。

続いて8ページ「未来を創る人づくりのまち」について、ご意見等はございますか。

(委員)

目標像2はこのエリアにおける教育の在り方ということ掲げていると思う。西播磨から出ていかないでということがある一方で、目標像6はいつか戻りたいという視点。目標像6のUJIターンは産業の方が中心だと思うので、目標像2に、この地域で生まれた子どもだけでなく、この地域ならではの教育ができるとか、教育のためにここを選んでくれるなど、西播磨は自然環境が豊かなところなので、UJIターンを教育の中で実現していく、そのような方向もあってよいかと、目標像2と6を比べて感じました。

(委員)

おっしゃるとおり、目標像2と6、目標像4と7、目標像8と10は関連しているところもあります。今のご意見を踏まえて、教育でも選ばれるようなUJIターンの視点が少し強く出てくるような記述を検討していただければと思います。

9ページ「ほどよいおせっかいで縁を結ぶまち」について、これは挑戦的なネーミングですが、その部分も含めてご意見ございますか。

(委員)

挑戦的とおっしゃったので、確かに今の時代、家族の多様化などの中で、はたして結婚することを出してしまう方が良いのか、少し気になります。特に最後から2行目「結婚に前向きになるように」という表現は、気持ちはわかりますが、今の時代やこれから30年先を考えた時に適切かどうか。特に日本の場合、出生のほとんどが結婚された夫婦から生まれるので、そういう意味でもこの意見は人口拡大には不可欠であるということは、分からないではない。先ほど申し上げたように、家族の形態が変わる中で、そういう意味で挑戦的なのかと思いながら、30年後にこの表現が適切なのかと気になったところです。

(委員)

行政委員の方にお聞きしたいのですが、各自治体や地域で婚活の取組みをされていると思いますが、この辺りはどうですか。

(委員)

赤穂市坂越でも婚活のお手伝いをしたことがあります。参加者が思うよう

に集まらなかったという経験があります。どういう風にすれば皆さんが魅力的に感じてくれるのか、一度参加してみようという気にさせるのは非常に難しいと思いました。

(委員)

この後に出てくる多様性という言葉があつたり、人を呼び込むときに一人親家庭にも優しいという視点もあっていいのではないかと思う。今日の意見を踏まえて、事務局の方で再検討していただけますか。他にご意見ありますか。

(委員)

結婚だけが縁ではないので、どうやって地域に縁を持っていただくのかは大事です。例えば、シングルマザーやDV等でどうしても遠く離れなければいけない方々も縁ですので、縁を結ぶというのは良い言葉だと思うので、これは活かして欲しい。

(委員)

10ページの目標像4ですが、「あらゆる多様性を受け入れるまち」について、ご意見、ご提案等はありませんか。受け入れるという表現が良いのか、多様性が尊重されるというような、生活者主体の表現が良いのか、単なる言葉だけのこともわかりませんが、検討ください。

12ページの第2の夢に移ります。目標像5の「地域の強みでみんなに選ばれるまち」について、ご意見、ご提案等はありませんか。

特にご意見がないようですので、次に進めます。14ページの「いつか戻りたい、ずっと住み続けたいまち」について、目標像2との関連も含めて何かご意見はありませんか。

(委員)

若者の雇用の場など、若者に注目するのは良いと思いますが、関わり続けるのは若者だけではなく、外国人も含めていろんな人が関わり続けるということ。交流人口から関係人口へという議論の中で、関わり続けるという言葉をやうまく生かしていただきたい。

先ほど申し上げたように、教育移住や都市部の学校が山村留学のようなものができる目標像2とも関係あるが、この6で書かれている部分は、テレワークやワーケーションを想定されていると思うが、関係人口を増やすところを、もう少し強調するとよいかと思う。移住してくるのもよいが、働く・住む場所だけでなく、人との関わりを増やしていく、以前あった「木のオーナー制度」のように、何らかの形で地域に関わるということを強調してもよいと思う。

(委員)

関わりということをここで採り入れられないかと、若者が最初にくるというよりも、むしろどんな人でも雇用がある、そんな形で表現できるのであれば、ご検討いただけますか。

(委員)

6のずっと住み続けたいまちというのが、私の専門分野である都市計画と関係が深いと考えている。書いてあること自体は、比較的どこにでもあてはまるという印象を受け、西播磨でなくてもいいのではと感じた。

ずっと住み続けたいまちという観点からすると、テレワークなどデジタル技術の発達によりという記述は、ずっと住み続けたいまちとは視点が違うのではないか。初期条件としてこういう社会の状況になっているにも関わらず、この話をしたところで西播磨である必要性がなくなってしまうのではないかと思

う。

西播磨全体に厳しいところがあり、メリハリはどうしてもあると思っている。西播磨地域の中でもずっと住みたいと思えるまちが果たしてどの程度あるのか。もちろん個人によって住みたいと思う優先順位や家族形態、景観的、歴史的なもの、コミュニティなどそれぞれあるとは思う。ここで思われているずっと住みたいまちは美麗字句で中身がないので、これではずっと住みたいまちになるわけないと思っている。

元氣な西播磨という夢自体はいいと思っているが、ずっと住みたいまちと言いながら、地域の強みで選ばれると言っているのは、階層性や戦略的思考がよくわからない。ずっと住みたいまちというのは、どちらかという維持していくというイメージだが、地域の強みで選ばれるまちはむしろ競争力を高めていくイメージ。まちとしてのイメージのバランスがよくわからなかった。

ずっと住みたいまちにこだわるのであれば、西播磨らしい居住スタイルやまちというのがどういったものなのか、1フレーズでも2フレーズでも示してほしい。もしないならこれからつくるといっているのであればある程度納得がいく。

文字だけを捉えても仕方ないので、少し見解を伺いたい。

(委員)

ここにずっと住みたいまちを置く場合、取組の方向性を読んで、だからずっと住みたいまちなんだなとわかるような表現を盛り込むことになると思うが、現時点で事務局としてはいかがか。

(事務局)

目標像5は、西播磨の魅力を発信していくことで、地域外から交流人口や関係人口が増えたらいい、西播磨に来てくれる人が増えたらいいという趣旨です。

目標像6は、多くの若者が転出しているため、若者が定住してくれるまち、仮に出て行っても戻ってきてくれるまち、またUターンだけでなく、西播磨がいいところだと思って移り住んでくれるまちになったらいいという趣旨です。

(事務局)

他の目標像に西播磨らしさが散りばめられているといえると思う。いろんな目標像があり、西播磨らしさが出ているものもあると思うが、それを住みたいという切り口でここにまとめている。具体性はこの目標像には入っていないが、他の目標像に西播磨らしさで魅力を出していこうというコンテンツが入っていると思う。

(委員)

ずっと住みたいというのは色々な考え方があると思うが、宍粟などで都市計画をやっていて思うのが、基本的にはどこの地域においても最低限の水準での都市的な環境や居住は求められていると思う。そういうものがあるのが前提で西播磨らしさがあるのであればよい。

もちろんこれはビジョンではあるが、やはり現実的に考えると、居住の質や建物のクオリティなど、一定水準があるのかどうか住みたいと思うかどうかの分かれ道だと思っている。

外に出て行ってしまうのはある程度構造的な要因だとしても、ずっと住みたいと思えるにはどういう所与の条件がありうるのかということも書いていただければと個人的には思う。

(委員)

テレワークやデジタルというのは、極端な話ではどこに住んでも良いという

ことになるが、例えば西播磨に住んだとしたら、違うところには行きたくないと思える部分は何なのか、ということ表現できるのであれば検討いただきたい。また、生活インフラの最低水準というのは他の項目にも記述があると思うが、それと併せて考えるというのは貴重な意見だと思うので、こちらも検討いただければと思う。

(目標像 7～9 特に意見なし)

続いて、目標像 10 について、私から発言させていただくと、専門外のため間違いがあればご指摘いただきたいが、地産地消でなんでも揃わないといけなのだろうか。県や市町では、今はそういう考え方を一番大事にされているのか。個人的には、地産地消だけではそんなに利潤は出ないと思うので、特産品を他地域と流通して、経済に還元させるというのが大事なのかなと思うが、地産地消ありきというような記述になっているがその方が良いのか。

(委員)

経済学の立場では、富を集積させるには交易が一番良いとは思う。

ただ、ここではカーボンニュートラルの記述もあるので、遠くから運んでくる際のエネルギーコストや二酸化炭素の排出をできるだけ少なくするという意図で書かれているのかなと思う。たしかに何でも揃うまちという記述はどうかというのはあるが、そういう意図だと考えている。経済学的に言えば比較優位のある生産を行って交易を行うというのが効率的で収益も上がると思うが、ここではそれとは違うロジックで書かれていると感じる。

(委員)

補足あるいは少し脱線になるかもしれないが、地産地消に関しては食やエネルギーに関する記述にとどまっていると思う。

私の専門分野から見れば、西播磨は木材等の資源が豊富。コンクリートを地球の裏側から持ってくるのではなく、地元の木材を使うことで環境に貢献できるし、西播磨らしさという部分にも貢献できると思う。また、建築に関しても伝統建築として優れたまち並みがあるので、そういうところでも活用していくというようなことも、盛り込んでいただければと思う。

(委員)

実際、県民局の庁舎もそういうことを意識して作られているように感じる。

(目標像 11 特に意見なし)

続いて、目標像 12 についてはいかがでしょうか。

(委員)

産業の部分に播磨科学公園都市が入るのは違和感を持った。自立の西播磨ということだが、自立できてないつつこまれそうな雰囲気もある。

文脈からすると、播磨科学公園都市だけが非常に具体的なエリアとして設定されている。その他はぼんやりとしたまちが想定されていて、空間スケールから言うと、播磨科学公園都市がシンボリックなものと理解される。

そうだとすると、書いてある取組の方向性にやたらと科学技術や産学官連携などがうたわれているのは、そもそものまちの成り立ちとは違うと私は思う。産業や暮らし、学術研究などを含め、理想的なまちをつくらうとして、1980年代から播磨科学公園都市が作られてきたと思うので、暮らしがちょっとでも見えるような記述が必要ではないか。

今はレクリエーション的機能も作られようとしているし、県立大学では附属高校を含めて何とか教育活動もしていきたいと頑張っているのも、未来をひら

くまちという目標像と取組の方向性にギャップを感じた。

(委員)

一つのポイントとしてはこの30年で生活の部分をどう表現していくかということがあると思うが、今の時点での事務局の考えはいかがか。

(事務局)

西播磨全体から見た播磨科学公園都市は、実験フィールドとして活用しているというニュアンスが出ている。職住が一体となり産官学が連携したモデル地域としていきたいと思いますというようなどころまではイメージとして出していないし、県民の意見にも強く出ていなかったため、このような表現になっているというのが正直なところである。

(委員)

現時点でまだ見えていないところ、こういうことは盛り込んだ方が良くというところがあれば、文言追加も含めて検討いただければと思う。

(目標像13 特に意見なし)

続いて、目標像14についていかがでしょうか。

(委員)

佐用町でもコミュニティバスやオンデマンド型の交通、タクシー助成など、外出支援サービスを実施しているが、やはり行政でできることには限りがあると思う。

先般、JR西日本社長の定例会見では、乗車率の悪い路線は見直していくという発言もあった。その中で、移動販売では買い支えという言葉があるが、鉄道についても乗り支えというようなことも考えていく必要がある。残してほしい、利便性を上げてほしいと要望するだけでは難しい。

取り組みの方向性で、地域を挙げて守っていくという書きぶりが加えられたら良いのではないか。乗らないと減っていくし、減っていくと乗らないという悪循環に陥ってしまうので、要望しながら、利用促進もし、地域住民も乗って支えるということを加えていただけたらと思う。

(委員)

今の発言についてご検討いただければと思う。

標題が困らず移動できるまちということで、先ほどのご発言も移動を支えていくという方向性だった。

少しひっくり返すような発言になってしまうかもしれないが、移動できないといけないのか。移動できなくても困らないとすると、別の視点になるので、元の表現も残すべきかもしれないが、移動できない人でも交流できるという視点はこことは違って来るかもしれないが、一つの意見としてご検討いただければと思う。

(委員)

15の目標像の考え方はわかるが、14の目標像との関係で、公共交通機関が維持されているところとなってくると、西播磨はエリアが広く人口密度が低いので、住むところがある程度限定されるというか、一部の地域に人口を集中させる必要があるということになりかねない。

目標像13の暮らし続けられるとか、14の移動ができるとか、15の地域で医療が受けられるというのは、お金がない中で3つを両立させるのは非常に厳しく、すべてを実現するのは難しいのではないかと感じた。

例えば、宍粟市であれば、山崎町の周辺地域にある程度人口が集まっていく

ような構造になっていくというようになりかねないのではと感じた。

(委員)

医師が少ないという課題がある中で、医師に来てもらうことが中心になるが、そうなると無理だという人も増えてくる可能性があるので、どうしていくんだというところは検討いただき、方向性の中に書き込んでいただければと思う。

余談になるが、P23 のところで、表題は健康・福祉・地域医療だが、内容は医療・介護になっているが、これは一致させずにこのままにしておいてください。

(委員)

私の専門の視点からになるが、このビジョンを今後どう使っていくかという観点から想像するに、色々な関係者に配られ、行動を方向付けるというのがビジョンの役立たせ方だと思う。そこで見せ方の参考になるのが SDGs の 17 の目標だと思っている。体系づけられているわけではないが、17 の目標があって、それを世界中のあらゆる機関が目標のいずれか、または複数にまたがって取り組みをしていきましょうという目標の示し方をしている。このビジョンもこういうものかなと思っている。

例えば、民間の企業がこのビジョンを見たときに、自分の取り組みはこことここに関係しているんだなと認識してもらい、自分は西播磨に貢献しているんだなと実感を得てもらったり、自信を持ってさらに推し進めてもらえるようになるのではないかと思います。

それぞれの主体が、ここに挙げられているもののどこに該当して、自分はどういうふうに役立っているのか確認できるような、そういう示し方が大事かと思う。その時に今の 16 の目標像を見た時に、やや表現がわかりにくいものがある。SDGs をモデルとして考えると、「貧困をなくそう」とか、「飢餓をゼロに」とか、望ましい状態を示してそれに向けてなんとかしようというような表現になっていると思う。何々しようという動詞で終わっており、それを見た人が具体的な行動にイメージしやすく、自分のやっていることが該当するのかなど、動詞の方が目指している印象を与えると思う。

その観点で見たときに、例えば「未来を創る人づくりのまち」は、具体的にどんなものを創り出そうとしているのか少し分かりにくい。分かりやすいのが「防災力の高いまち」で、それを「防災力を高めよう」の言い方が分かりやすいかなと思う。地産地消のところでは、「地産地消でなんでも揃えよう」とか「価値あるものを作っていこう」というようにすれば、自分の取り組みはここに関係しているんだなと認識してもらえる。そういう観点で使い方を想定した表現にした方がいいかなと思います。

また、地域の夢と目標像は何が違うのか。多くの人に見てもらうためには出来るだけシンプルにした方がよく、そのためには階層を複雑にせず、西播磨らしい暮らしを作るというのが大目標だと思うが、それに向けて 16 の目標像がある。大きなテーマとして 4 つに括るのはいいと思うが、地域の夢と目標像は何が違うのか、あまり意味のない議論にならないようにシンプルにした方がいい。

使い方、目標像の表現の仕方、出来るだけ階層をシンプルにする、あくまで私の意見ですが、この 3 点を参考にいただければと思います。

(委員)

取組の方向性は全て動詞で終わっている。ワクワクする表現もあったりする

ので、一度動詞に置き換えて示してもらえるといいかもしれない。目標像はこれでいくのであれば、シンプルに表現して耐えられるか、一度文言整理していただけますでしょうか。

(委員)

全体的な話になるが、気になった点として、西播磨が30年先どうなるのかを予測しながら、それに地域の人々の意見を反映しながらどうやっていったらいいのか難しい問題だが、30年後にどうなっているのか、間違っていたら話にならないが、ITを使ってとか空を飛ぶとか、大体はどうなるのか予測されている。鉄道をどうするのかなど、目の前の課題とすり合わせをするのは出来ないのではないか。

網羅的に書こうとしているので、薄まって常識的な範囲で作られているという印象を持った。例えば、目標像の3で結婚の話が出てきたが、結婚という言葉が直接出すのは厳しいかもしれないが、西播磨の条件で本当に必要であれば、もっとおせっかいしたらいいと思う。新しい仕組みをつくり、その延長上で30年後賑わうまちになればいいなど、そういうことをどんどん絞り込んで書いていったらいいと思う。どの項目も西播磨をベースにして挑戦的にした方がいいのではないかと思う。ビジョンなのでどこをどう変えてほしいということではなく、地域が望んでおり、困っている若い人が、何かそこにチャレンジするというのを具体的にビジョンとして書いた方がいいのかなど、全体的な印象として持ちました。

(委員)

難しい問題ですので、少し考えます。

(委員)

ビジョンの作り方は、どうしても行政計画でありながら、一方で皆さんがどういう方向を目指すのかというところがある。30年後を見ながらというのはなかなか難しいということで、県全体のビジョンでこういう社会が待ってますと、ある程度予想されるものを見ながら皆さんに考えてもらおうとしている。ただ兵庫県は地域性があり、兵庫県が作った30年先がどこまで応用できるのかは疑問で、西播磨らしいものを強調していく方がいいのではというのは、どこでも応用できるよねというのに対する考え方だと思う。

ビジョンは住民が作る部分が多い。行政計画なのである程度枠組みがあって、スパイスを効かせるのが精一杯かなと思う。西播磨としてチャレンジしていくというのは一つの提案として興味深いですが、実際の落としどころは西播磨らしいスパイスをどう効かせるかだと思う。おせっかいだとか、縁を結ぶところはスパイスが効くところだと思う。食やエネルギーの地産地消、森林など材の地産地消、ある種のスパイス。もうちょっと前に出てくるような仕組みになればいいのかなと思います。